

# おお大勝利

令和4年度 山東サッカー一部報第6号 (6月23日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県総体は2回戦米中に屈する

次の公式戦迫るまで部報は書かないで放っておこう、と思ってダラダラしていたら、そろそろ県総体第一ラウンドから1か月が経とうとしています。今週末にリーグ戦が再開するので、書かなきゃダメですね。

**5月28日(土) 県総体1回戦**が酒田市を主会場に行われました。山東の1回戦の相手は、**東桜学館**。今年春に中学1年から育てた1期生が卒業し、中高一貫校として順調な船出を遂げた高校。サッカーの面でも東根市中央公園を利用しながら、力を蓄えてきた。二人いる顧問のうちお一方は、私も前任校で一緒にサッカー部顧問を組んだ山東OBの先輩。その奥様は現在山東に勤務しており、娘さんは現役山東生(息子さんは山東OB)。とまあ、山東に関係の深い顧問がいらっしゃる。最北地区予選は新庄北に次ぐ2位だったものの、決勝では(何らかの作戦があったか)本気モードではなかったとのこと。

会場は**酒田市の光ヶ丘球技場**。この会場で思い出すのは、昨年県新人で酒田東にPK合戦負けした戦い。あれは悔しかったな～。できれば、今年もう一度酒田東と対戦したかった・・・昨年はPK負けだが、内容面でも確実に負けていた。今年実際やったら、どんな戦いになったのでしょうか。うちもチーム力を向上させた自負があるが、それは相手も一緒でしょうから。

さて、無観客で実施された会場だが、**柵の奥には保護者が勢ぞろい**。また、**テグチの代のOBも集まってくれた**。**後藤報道局長**も遠路はるばるいらっしゃる。清野総監督は都合により欠席。試合に備えて、**酒田で開業された伊藤トレーナー**がその日から合流し、チームに帯同してくれることとなった。非常に心強い。後は選手が頑張るだけ。試合が始まると、前半明らかに山東ペース。相手は前半守備的に入って、様子を見る作戦のようだ。それならば、と山東攻勢を強めるも、決定的な仕事ができない。と思ったら、やはり頼りになるのは、「どっちつかずの展開の中で決定的な仕事ができる個」の力。**3年FWカタタ**が抜け出して、猛然と追ってくる相手もわずかにかわしながらGKを抜いてゴールに流し込む。山東先制に成功。そして追加点もやはり彼。今度はGKの脇を抜いたシュート。なかなか1対1で得点できない時期もありましたが、今期本当に勝負強い。そして頼りになる。MF、DFのプレー強度も悪くない。相手にプレー選択の時間を与えない守備ができた。**前半2対0**で折り返す。

後半になると、相手が勝負とばかりに前がかってきた。特に個の力のある選手がアウトサイドに控えており、その選手にボールが渡ると攻撃に迫力が生まれる。山東としては、その選手にボールが渡らないようにしたいし、渡っても複数人数で囲んで良いプレーをさせないようにしたい。**相手も必死に来るので、県総体に楽な試合はないと事前に思っていた通り、かなり苦しめられた**。けど、こっちも必死に体を張り、決定機までは与えていな

かったと記憶している。逆に**1年ショーゴ**がドリブルからPKを獲得し、それを自ら決めて、**結局3対0で勝利**。いくらショーゴが得たPKとはいえ、1年生にこの大舞台任せますかね〜。「3年しっかりしろ」と言いたくなる瞬間でした。後半は相手の勢いに飲まれかけた山東でしたが、しぶとく戦ったともいます。県大会で終始ペースを握って完勝できる力があるなんて、始めから思っていないので、想定内の試合だったかなと思います。

そして、酒田に泊まって翌二回戦を迎える。**このチーム、校内合宿はあったが、外に泊まる経験はこれが初めて**。浮かれることなく、翌日に備えてくれただろう。朝には、**伊藤トレーナー**がまたいらして、テーピングしてくれたり、治療してくれたり、して下さった。この日の試合は帯同とまではいきませんでした。助かりました。ありがとうございました。選手と一緒に、今野、高橋コーチ、そして佐竹コーチは酒田に宿泊。万全の体制で**2回戦シード校米沢中央戦**を迎える。

米沢中央は、シード校の強豪ではあるが、コロナの関係で4月以来ずっと活動ができず、県総体前にやっと活動し始めた。公式戦も1試合しか行っていない。調整不足は明らか。そして、監督が交代した動揺も、ないことはないだろう。そこらが付け入るチャンスではある。試合が始まると、予想通り、米中はCBとMFの絡みで後方から丁寧にビルドアップしてくる。こちらは前線であるべくCBにロングキックさせないよう制限しながら、ボランチを使ったときに強い圧力をかけたい。前半はそんな山東のプラン通り、ボランチのところで良い形で、山東の選手が前向きにボールを奪うシーンが何度かあり、**ボールポゼッションでは米中だがゲームは山東がコントロールしたと言える前半**だった。が・・・アウトサイドから攻められてディフェンス陣がゴール前に引いたところで、ペナルティエリア中央外から相手選手がミドルシュート一閃。**ここでそのキック、そのシュートができるかというゴラッソ**が生まれて、**前半終了間際に失点**。確かにシュートを打った選手へのアプローチは遅れましたね。前半0対1。

後半は、相手ビルドアップをさらに前から嵌めて、さらに高い位置で奪おうと山東が圧力を高めた。もちろん得点を狙ってのことだが、前半と比べると、相手がビルドアップを避けてロングキックで活路を見出すことで、逆に米中のパワフルな攻撃を生むことにつながったし、やはりハイプレスをかいくぐられたときの相手の攻撃の威力が強まることとなった。徐々に、良い形でボールを奪うことができなくなってきた。そして、ここまでチームを牽引してきたカナタも、相手CBの適切なポジショニングと寄せに力を出させてもらえない。**唯一左SHショーゴが再三相手をぶち抜いて、チャンスをつくり出してくれた**。終盤にかけて、**3年グッチ**を一系列上げて、昨年来の「勝負の形」にして、相手ゴールに迫るものの、逆に相手選手を自陣ペナルティエリア内で倒してしまい、**PK献上**。そして、**0対2**となり、最後まで得点を狙ったものの、そのままのスコアで敗戦となる。

選手や、スタッフ、マネージャー含めて、すばらしい準備、仕事をしてくれたと思いますが、勝利を手繰り寄せることはできませんでした。「あとは、監督としてどんなことができたかな〜」と、例年のことながら、反省し続けています。確かに相手選手には山東になくクオリティ感じましたが、チームとチームの勝負の中で山東に勝機がなかったわけではない惜敗でした。**遠いところまで応援ありがとうございました**。いよいよ今週末からリーグ戦再開、**山東3年生も、もう少しプレーしますし、最後まで成長を目指します！** 応援よろしくお祈いします（山形中央高校でのリーグ戦は**個票**を提出して、**受付して観戦可能**です）。

**6月25日(土) Y3A第6節 鶴岡中央戦 12:00~ @山形中央G**